

公開講演会+オープンラボ
北の林業イノベーション
—新技術が切り拓く北海道林業の未来—

(報告)

日時：平成25年10月10日（木）10時～16時

講演会会場：千歳市民文化センター（千歳市北栄2丁目2-11）

発表1「シカ対策に求められるもの」

発表者：松浦友紀子（森林総合研究所北海道支所）

発表2「エゾマツの資源回復に向けた新たな試み」

発表者：後藤晋（東京大学）

発表3「北海道におけるコンテナ苗の育苗技術開発にむけて」

発表者：田村明（森林総合研究所林木育種センター北海道育種場）

発表4「高能率な植栽技術を目指して」

発表者：山田健（森林総合研究所林業工学研究領域）

オープンラボ会場：胆振東部森林管理署 1218 林班ほ小班

コンテナ苗自動植付機の説明

コンテナ苗植樹の説明

コンテナ苗自動植付機デモ

コンテナ苗植樹

内容：

森林総合研究所北海道支所は、「北の林業イノベーション」と題し、公開講演会とオープンラボを開催しました。

広大な北海道の森林資源は、人工林を中心に本格的な利用が可能な段階に入りつつあります。こうした成熟した森林資源を活かし、地域林業の活力を高めていくため、森林総合研究所は他の研究機関や行政組織とも協力しつつ、本支所一体となって技術開発に取り組んでいます。

これらの研究成果について様々な分野の方に広く知って頂くために、今回の催しとなりました。

公開講演会では、発表1で松浦が、全国的に問題となっているシカによる森林被害を減らすため、シカの捕獲手法に関する研究について説明しました。

発表2では後藤が、資源量が減少しているエゾマツを、育苗方法の改良や開発によって資源回復させる取り組みについて説明しました。

発表3では田村が、コンテナ苗を使った育苗技術の課題等について、エゾマツで行ったコンテナ苗の育成試験結果などを参考に説明しました。

発表4では山田が、伐採・造林一貫作業が可能な機械、コンテナ苗の自動耕耘植付機などによる高能率な植栽技術の開発について説明しました。

【公開講演会の様子】



牧野 支所長のあいさつ



会場の様子



会場の様子



発表 1：松浦



発表 2：後藤



発表 3：田村



発表 4：山田

午後から会場を移し、胆振東部森林管理署管内の国有林でオープンラボを開催しました。

コンテナ苗自動植付機の説明、開発者の山田による機械のデモンストレーションを行いました。その後、参加者の皆さんで専用の器具を用いてコンテナ苗の植樹を行いました。

【オープンラボの様子】



コンテナ苗自動植付機 説明



コンテナ苗自動植付機 デモ



コンテナ苗 植樹



コンテナ苗 植樹

当日は、道、道関係機関、市町村、大学、一般企業、森林組合、森林管理局などたくさんのご来場・ご協力をいただき、また活発な意見交換をすることができました。（受付総数166名）